

ごっとな会のそばひき体験 「よーいしょ」と石臼を回す

7月12日、白石地区の水車小屋で石臼を使ったそばひき体験が行われました。これは、白石集落農業生産組合「ごっとな会」(中村あづ子組合長)が主催。町内外から24人が参加しました。参加者は、1組ずつ中村組合長の説明を聞きながら、硬いソバの実を手で確かめ、石臼でひいた後ふるいにかけ、そば粉作りの工程を体験しました。特にも子ども達は、大人でも重いと感じる石臼にもかかわらず、何度もそばひき作業に挑戦し、普段では味わえない体験を楽しんでいる様子でした。



鯨と海の科学館が再開 家族連れで海の世界を楽しむ

昨年の令和元年東日本台風で被災した鯨と海の科学館が15日から一部開館しました。再開して初めての日曜日となった19日には、町内外から家族連れなど230人が来場。深海生物の展示や鯨の骨格標本などを間近で観察し、海の世界を楽しんでいました。今回の一部開館では、新型コロナウイルス感染症対策のため生き物に触れるタッチプールなどの一部コーナーは再開していませんが、代わりに目で見て楽しめるようにと、リュウグウノツカイなど新しい生物の展示を追加しています。

高校生活への期待膨らませる 山田高で中学生が体験入学

7月3日、山田高校(宮^{まなぶ} 学校長、生徒110人)では、中学生を対象とした1日体験入学を実施しました。この体験は毎年行われているもので、今年は山田中学校や宮古市の津軽石中学校から3年生計105人が参加。体験入学では初めに、学校行事の紹介や山田高校で独自に取り組むプログラム「総合的な探究の時間」の説明が行われ、高校への理解を深めました。その後、グループごとに分かれ、それぞれの部活動の様子を見学。体験を終えた中学生たちは、高校生活への期待に胸を膨らませました。



閉校した学校の本を無償提供 町内の親子連れらに配布

7月4、5日、山田町教育委員会では、3月に閉校した町内小・中学校の本を無償提供する蔵書配布会を町立図書館で開催しました。蔵書は、閉校した6小学校1中学校の図書室から状態の良い本を約千冊厳選し、新型コロナウイルス感染症対策のため消毒した上で配布。当日は、町内の親子連れらが訪れ、児童書や絵本、図鑑など多彩なジャンルの本を見定めていました。絵本や図鑑などを選んで小野浩楠君(山田小1年)は「家に帰って読むのが楽しみ」と笑顔でバッグを膨らませていました。



町のわだい

今月の題字 長門 ^{けいすけ} 恵佑さん（山田小6年）



B&G海洋教室開催 マリンスポーツで笑顔

7月18日、B&G海洋教室が開催され、町内の子どもたちが参加しました。海洋教室では、初めに紙芝居による水辺の安全教室が行われ、水辺の危険と命を守るための対応について学びました。その後、海洋センターのインストラクターの指導を受けながら、カヌーやSUPのマリンスポーツを満喫。また、バナナボートに乗り湾内を周遊しました。天候は小雨で気温も低い日でしたが、今回初めて参加した岡田大雅君（山田小5年）は「楽しかった！SUPは立ってバランスをとるのが難しかったけど、それが面白かった」と元気な笑顔を見せていました。



元気いっぱいに踊りました！ 第一保育所園児が虎舞披露

7月5日、関口神社（佐藤明徳宮司）で山田町第一保育所（阿部康子所長、園児67人）の年長組13人による虎舞が披露されました。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、園児たちの虎舞を披露する機会が失われ、練習を見守ってきた保護者の熱い思いから同神社の例大祭後に発表したものです。園児たちは、緊張した面持ちでしたが、「よーいさーよいさーよいさー」と元気のいいかけ声で盛り上げ、目いっぱい踊り、日ごろの練習の成果を発揮。観覧していた人達からは大きな拍手が送られ、園児たちは満足げな表情を浮かべていました。

